

国語の授業の交流における授業改善

～交流における話し合いの場の在り方について～

根本小学校 今井 英津子

1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・ 全体交流における話し合いの場の在り方

2 具体的な実践

(1) ペアと話す中で自分の考えを持つ

単元や1時間の初めの段階で使うと効果的である。

特に自分の考えをノートに書くことはせず、自分が手がかりにした言葉とその言葉から考えた内容をペアの子に話す中で自分の考えをはっきりさせるようにする。

具体的には、物語文章などで登場人物の気持ちや様子などをとらえる中で、自分の考えを話すことに抵抗のある児童や自分の考えに自信をもつことができない児童や書くことに抵抗を感じる児童に対して、自分の考えを持つことや発表することに抵抗をなくすために行った。

この活動後、挙手をするのに抵抗感を抱いている児童が自信をもって挙手をし、大きな声で発表することができた。

(2) 書いた考えをペアに伝える

単元の中盤や1時間の中で目当て(課題)に迫る発問のときに使うと効果的である。特に、全員に考えを持たせたいと考える時。

自分が手がかりにした言葉とその言

葉から考えた内容をノートに書き、その内容をペアの子に伝え、どのように考えたかを確認する。

具体的には、物語文章でこの人物のこの場面の気持ちを考えるというように、ある程度考える内容を焦点化し、ノートに自分の考えを書く時間を確保し、その後ノートに書いた考えをペアの相手に伝えることで、自分の考えに自信をもって発表したり、友達とは違う考えを聞く中で考えを広げたりする。

この活動後、友達の考えを聞いた中で、自分と違う内容を見つけ、「そういう考えもあるんだね。」と考えを広げることができた。

(3) グループで話し合いをする

単元の終盤や主題または全員に考えを持たせたいが、なかなか全員が同じように考えることが難しいと判断をしたときに効果的である。

全体交流の中である課題についてグループで話し合いを行う場を設ける。

具体的には、全体交流の中で話し合いを行いたい内容を焦点化し、その内容についてノートに考えを書くのではなく、グループで話し合いをする中で考えを持つようにする。

その話し合いの中で、考えを持つ子、自信を持って発表しようとする子、何とか自分の考えを話す子など、いろいろな段階の児童がいる中で、少なくとも一回

は焦点化された課題について話すことができる。

この活動後、焦点化した課題について考えを持つことが苦手な児童も、積極的に挙手をして発表することができた。

3 実践を振り返って考えられること

全体交流における話し合いの場の在り方については、いろいろな段階の児童に対応するために抵抗感を取り除くようにしていくことが大切であると考えます。また、小集団にすることによって、話すことに抵抗を感じている児童も話し合いに参加することができる。聞くことに抵抗を感じている児童も近距離で少人数の話を理解することができた。また、話し合いの持ち方にも抵抗感を取り除くよう段階を設けたことでどの子どもも積極的に話し合いに参加できるようになったことに価値がある。